

**編 集**  
**後 記**

今年はどういう年にしていこうなどと考えているうちに、2016年もはや1カ月がすぎてしまいました。危機に直面しているわけでもないのに過去を振り返り、将来を計画し、思い考えることの容易ではないこと…。

さて、今号では終末期の話し合いに対する医師の態度と、終末期鎮静が予後に与える影響に関する国内の研究が紹介されています。いずれも患者、家族にとってやり直しのできない重要な体験であり、医師にとっても単純な価値では判断できない状況です。難しい臨床場面を考える一助となるような研究が進むことを期待しています。さらには「その後」についての話題提供もありました。私自身の臨床でも、死後について考えを伺うことや意見を問われることは珍しくありません。改めて振り返って考える機会をいただきました。

悩み、迷いながら選択を繰り返す新しい年が始まります。今年が皆様にとってよい1年でありますように。(秋月 伸哉)

秋月 伸哉  
家田 秀明  
岸田さな江  
齋藤 義之  
佐藤 一樹  
○恒藤 暁  
久原 幸  
龍 恵美